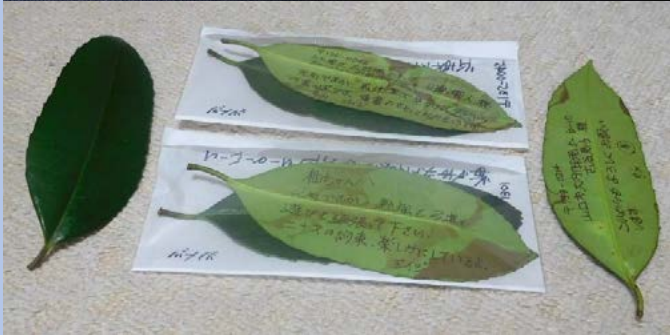
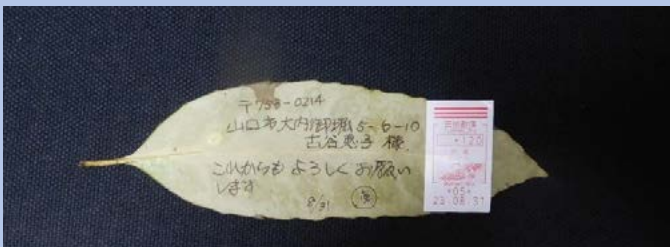


萩往還一升谷の植物相 その2



15【タラヨウ】 根の迫の休憩所上部

萩往還では3か所確認している。正にハガキの語源となった木。実際に葉っぱを投函してみたのが下の写真。費用は 120 円。



16【ヤブニッケイ】

はっきりした3本の葉脈が特徴。



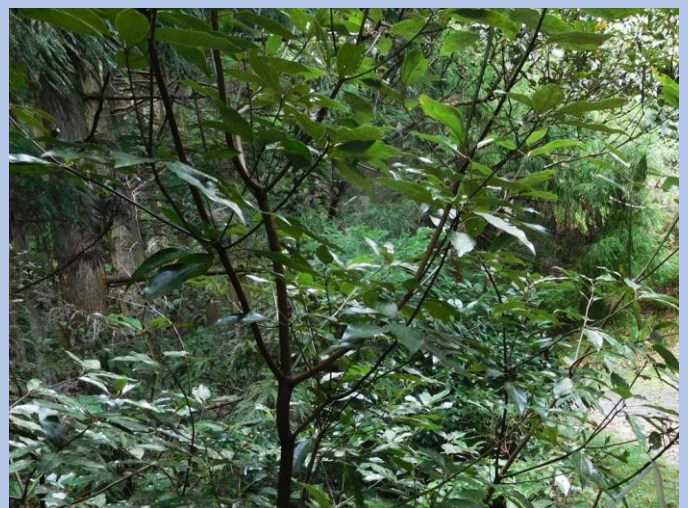
17【タムシバ】 根の迫の休憩所前

白い花が咲く。よくコブシと間違えられるが、山口県でコブシが咲いているのは十種ヶ峰のみとのことである。



18【サルトリイバラ】 根の迫の休憩所前

柏餅を包み込む材料として使用される。



19【シロダモ?】 根の迫の端付近

葉の裏が白い。なお、バットの材料として使用されるのは、アオダモである。この木がシロダモというのは間違いかも知れない。お分かりの方はご連絡下さい。



20【イヌザンショウ】根の迫の橋付近

サンショウに似るが、香りがせず、役に立たないことからこのイヌという名がついたと言われる。

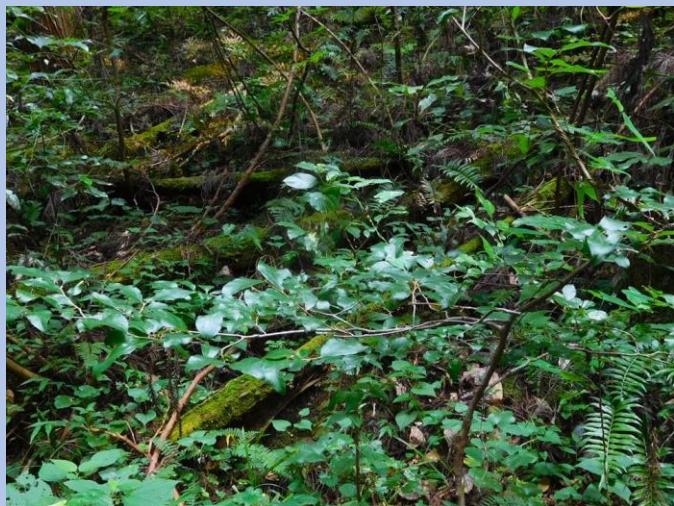


23【コガクウツギ】一升谷中間付近 再掲 白い花が咲く。



21【ハナイカダ】一升谷中間付近

花が葉の表面に咲く、不思議な木。写真が不鮮明なのが残念。葉の上の小さな粒粒がそれ。



24【ヤマコウバシ】一升谷中間付近より下

この葉は紅葉しても、冬の間中、落葉しないことから、受験のお守りとしても用いられている。



22【イズセンリョウ】一升谷中間付近

伊豆地方の伊豆山神社の社林の多く自生することから付けられた。センリョウというと、庭の千両、万両を思い出すが、センリョウはセンリョウ科、万両はサクラソウ科であり、イズセンリョウはサクラソウ科なので、万両に近いのかもしれない。



25【不明】一升谷中間付近より下

全くメモには取っていないので、何と言う植物なのか不明。コアカソかもしれないが、今一つ確信が持てない。お分かりの方よろしくお願いします。



26【ホソバタブ】一升谷中間付近より下
別名、アオガシ。春に花を咲かせ、夏には黒い実がつく。



27【ヒサカキ】一升谷中間付近より下
神様に捧げるサカキの代用としても使用される由。名前は、榊に非ず、ということで、非榊-ヒサカキとなったと言われる。



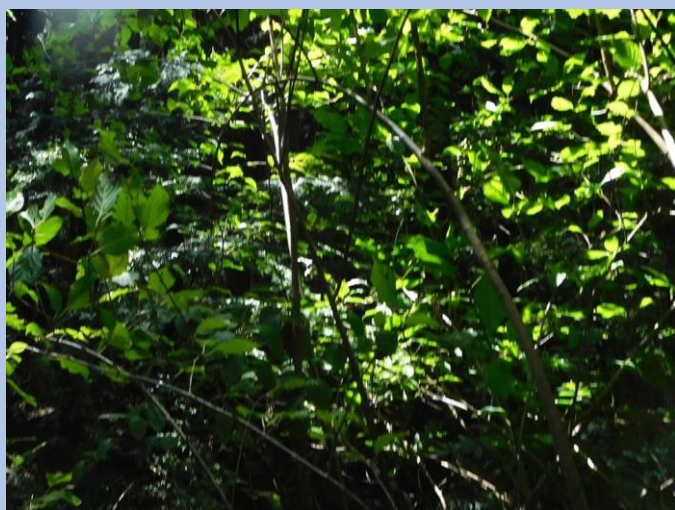
28【コバンノキ】一升谷下流
文字通り、葉が小判の形をしていることから、この名がついたということくらいしか分からない。



29【不明】 ナンバンカラムシだろうか。



30【アブラチャン】一升谷下流
漢字では「油瀝青」と書く。「瀝青」とは石油やガスのことで、「チャン」とも読むそうだ。名前の如く、生木でも良く燃える。



31【キブシ?】一升谷下流
写真のピントも甘いし、これが「キブシ」なのか確認ナシ。説明では、カンザシ状の黄色の花が咲くとのこと。お分かりの方はご連絡下さい。
第二部 以上 2023.9.7 古谷眞之助 記